

佳作

「患者様貢献の実現」

風間博仁（エーザイ株式会社 東京エリア 東京二部）

私が『MRになって良かったこと』は『患者様貢献を医療従事者と実現できたこと』である。患者様貢献は私のライフワークであり、医薬品を通じ実現するためMRを志した。しかし強く抱いていても日々の業務に忙殺され想いを汲み取れず、志と現実のずれを認識することがある。そのような時、MRの根幹を振り返っている。

- ・ MRを含む医療関係者は患者様の利益を第一義に考え行動する
- ・ MRは医薬品の普及を通じ薬物治療のパートナーとして患者様貢献を行う

この2点は普遍であり、今後様々な環境変化が起ころうとも変わることはない。過去に医療従事者とともに実現できた事例を2つ提示する。

【事例1】

心臓カテーテル実施前の血栓溶解剤投与は患者様の有益にはつながらない、と多くの医師は考えていました。ある日、担当医師から「血栓溶解剤を投与するから病院で待機してほしい」との連絡を受けました。私は患者様に喜んで頂けると信じる反面、患者様の不利益を危惧しました。その後、医師から状況をうかがうと驚くべき事態が起こっていました。カテーテル施行前に冠動脈が再開通し、治療が短時間で終了したのです。このことは患者様にとって心臓のダメージが少なく、ご家族も深く感謝している、と医師からうかがいました。以後、私は次の提案を医療関係者に行いました。

血栓溶解剤投与はリスクを伴うので適切な症例に投与する

定期的に症例検討会を開催し有用性がリスクを上回る患者様を的確に見つけ出す

副作用発生時の緊急処置マニュアル作成しカテーテル室内に明記する

この事例で私は医療従事者と想いを共有し、患者様貢献を実現でき専門医からの信頼も得られました。

【事例2】

認知症患者様の受診が進展せず、患者様及びご家族が望まれる薬剤をお届けすることが出来ない状況にありました。そこで当地域の問題が何かを医療従事者・患者様の立場になって考え、3点の原因と解決策を見出しました。

診断・治療が未経験のため処方できない

問診技術向上を目指した勉強会開催

診断後、専門医不在のため紹介できない 認知症専門医紹介リスト作成・配布
患者様及び家族から認知症の訴えがない 市民公開講座の開催

しかし解決策を行政・医師会に提案しましたが実現できませんでした。要因は関係者と想いを共有していないからです。私は想いを医師会長にぶつけました。その時の医師会長のお言葉を私は一生忘れません。「患者様とそのご家族を助けたいという気持ちは皆さん同じです。医療に携わるものとして協力しますし実現しましょう」。以後、全てがスムーズに運び出しました。メディアにも協力頂き、市民公開講座や紹介リストは地方新聞・TVで取り上げられ反響を呼びました。「患者様とご家族を助けたい」という想いを医療従事者・行政関係者と共有し、患者様貢献を実現できたのです。

医療従事者が望む真のMRとは何かを私は常に考えている。私は『患者様の苦しみを取り除く医療の尊厳性、それ故の責任と誇りを自覚し患者様貢献を果たす活動をMRは行う』ことだと認識している。従って生命関連業務に携わる者として高質な知を医療関係者へ提供する必要がある。私を含め全国で活動している5万人以上のMRが医療機関に訪問する目的を明確にしなければならない。結果としてITが発達し薬剤情報の入手が容易になるとも、タイムリーに情報提供ができるMRの存在性が増し、MRの社会的地位向上にもつながるのである。

MRの使命は『疾患ごとに最適な医薬品を医療関係者へ提案し、一人でも多くの患者様に一刻も早く適正にご使用頂き、患者様貢献を果たす』ことである。わが社はhhc(ヒューマンヘルスケア)企業として定款に患者様貢献を明記し、株主はじめステークホルダーの皆様と共有している。社員はhhcの価値観を基軸とした活動を個人・組織で実践している。私は社の企業理念に共鳴したからこそ社に存在し、責任と誇りを持ってMR活動を行っている。使命を果たすため私は自己研鑽を惜しまない。そして次の想いを世界のMRの皆さんと共有したい。「患者様の病態に合わせた薬物治療の提案を行い、患者様貢献を果せるのは自社医薬品に精通したMR以外に存在しない」のである。私はMRになって良かったと感じている。